

戦評用紙

平成 26 年度

北河内地区秋季大会

26年9月6日 時刻9:30

女子【準決勝】

東香里

62

21-11

17-7

14-4

10-4

26

寝屋川三

第1PD

東香里④⑤⑦⑧⑨寝三④⑤⑥⑦⑧でスタート。東香里オールコートマンツーマンに対し

寝三はハーフマンツーマンで対抗するが、オフェンスでリズムを作れない。東香里⑨のオープニングショッ

トから⑧のインサイドプレイ、交代で入った⑩のミドルシュートなどで着実に加点する。寝三も⑦のミドル

シュートや④⑦のスティールなどから反撃するも、21-11で第一PD終了。

第2PD

東香里⑤⑥⑦⑧⑪、寝三④⑤⑦⑧⑰でどちらもDFを変えずにスタート。東香里はDFか

らの速攻や寝三のミスから点差を広げる。⑧のゴール下やリバウンドによりリズムよく加点し、④のファスト

ブレイク、⑪の連続3Pなどで加点する。寝三は⑧の1ON1や⑰のゴール下、パッシングで粘るが、38-18

まで点差を広げられる。

第3PD

東香里④⑤⑦⑧⑨オールコートマンツーマン、寝三⑤⑥⑦⑧⑰ハーフマンツーでスター

ト。東香里のDFを寝三は突破しきれない間に、東香里は攻撃を緩めず、プレイヤー全員がバランスよく

得点する。残り2分で寝三は5人交代から2-1-2ゾーンに切り替えて流れを変えようとするが、リバウンド

が取れず、東香里は⑧を中心に得点していく。52-22で第三PD終了。

第4PD

東香里④⑦⑧⑨⑩寝三④⑤⑦⑧⑰でスタート。東香里の堅いDFに得点できない時間が

続く。その一方で東香里は⑧⑥が中心になって加点していく。寝三は最後まで諦めずプレイを続けたが、

選手が交代しても、どの選手も自分の役割を果たし、DFで圧倒した東香里が62-26で勝利した。

(戦評／門真第三中：北田)

戦評用紙

平成 26 年度

北河内地区秋季大会

26年9月6日 時刻9:30

女子【準決勝】

中木田	40	$\left[\begin{array}{c} 6-7 \\ 6-7 \\ 6-8 \\ 16-12 \\ 6-7 \end{array} \right]$	41	招提北
-----	----	---	----	-----

第1PD	中木田④⑤⑥⑦⑧、招北④⑥⑦⑧⑨でスタート。開始直後、両チーム堅さがあり、なかなかシュートが決まらない。両チームハーフコートマンツースで、シュートブロック、パスカットから速攻を狙う。中木田は⑥のドライブやミドルシュートで得点。対する招北は⑨のセンタープレイや⑥のドライブからの1スローもあり、6-7で第1PDを終える。
第2PD	中木田④⑤⑥⑦⑧招北④⑥⑦⑧⑨でスタート。1PDに続き、両チームなかなかシュートが決まらない。お互いにメンバーチェンジで流れをつかもうとするが攻めあぐねる。それでも招北は外でのボール回しから⑥のドライブから得点する。両チーム決め手に欠き、前半は12-14で終了。
第3PD	中木田⑤⑥⑦⑧⑨、招北④⑥⑦⑧⑨。招北はDFをハーフ1-3-1ゾーンに変える。中木田はパス回しでゾーンを崩そうとするが、なかなかシュートが決まらない。招北は⑨のインサイドプレイが入りだし、リードを広げようとするが、中木田も⑥のドライブからのシュートで食い下がり、18-22で終了。
第4PD	開始直後、招北⑨OFリバウンドからのシュートや、⑫ミドルシュートなどで差を広げる。中木田はなかなか決まらなかった速攻が決まり食い下がる。その後⑦の3Pや⑥のスティールで逆転。招北も⑦インサイドプレーからの2ショットや⑥ドライブからのシュートで追いつく。34-34で終了。
延長	中木田④⑤⑥⑦⑨招北④⑥⑦⑧⑨でスタート。中木田は⑤⑥⑨を中心に攻め、得点する。招北は⑧の3Pで食い下がり、⑥フリースローを2本決め、逆転に成功。残り10秒、集中力を切らさずDFを頑張りぬいた招北が、手に汗握る接戦を制した。
(戦評／門真第五中：藤林)	

戦評用紙

平成 26 年度

北河内地区秋季大会

26年9月6日 時刻12:50

女子【決勝】

東香里	72	{	21-8 16-7 16-13 19-11	}	39	招提北
-----	----	---	--------------------------------	---	----	-----

第1PD

東香里(白)④⑤⑦⑧⑨、招北(青)④⑥⑦⑧⑨でスタート。DFは白がオールコート、

青がハーフコートのマンツーマン。試合序盤は白⑧、青⑨のインサイドの攻めがともに決まりイーブンの戦いであったが、途中青の⑨にボールが入らなくなってからは、青の点数が止まり、その間に白は⑧のインサイド、⑦⑨の3Pなどで得点を重ね、21-8で第一PD終了。

第2PD

青はDFを1-3-1のゾーンに変え、相手の得点を抑え、チャンスをつかもうとするが、少な

いチャンスをものにできないでいたので、点差が縮まらない。その後白のファールが続くが、青もなかなか攻めきれない。しかし、白⑨⑦の3Pが連続して決まり、その後も白⑩⑧などが得点を決め、31-15で前半終了。

第3PD

白青とも前半と同じメンバーでスタート。青はDFをマンツーマンに戻した。青は⑨のハイ

ポストフラッシュからのバックドアや、あわせのプレーを中心に得点するも、その間に白は⑦⑧を中心に確実に得点を重ねていき、点差はあまり広がらないが、青は追いつくことが出来ず、53-28で第三PD終了。

第4PD

第四PDになり、白はベンチメンバーを中心にオールコートの2-2-1に変えてからは、

お互いに速い攻防が繰り返され、お互いが点数を重ねたが、差は少しずつ広がり、72-39で試合終了。

(戦評／門真はずはな中：田仲)